

第6回 学術・教育・研究委員会の会議概要 (学術部会常設委員会)

日 時 平成19年10月26日(金) 12:45~15:30

場 所 日本獣医師会会議室

出席者

【委員長】	酒井 健夫	日本獣医師会理事(学術部会長)
【委員】	石黒 直隆	日本獣医公衆衛生学会副会長(岐阜大学応用生物科学部教授)
	大橋 文人	日本小動物獣医学会会長(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授)
	加茂前秀夫	日本産業動物獣医学会会長(東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授)
	熊谷 進	日本獣医公衆衛生学会会長(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
	竹下 正興	長崎県獣医師会会長
	辻本 元	日本小動物獣医学会副会長(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
	内藤 善久	岩手県獣医師会副会長
	中尾 敏彦	日本産業動物獣医学会副会長(山口大学農学部教授)
	藤永 徹	北海道獣医師会理事(北海道大学大学院獣医学研究科教授)
【本 会】	中川 秀樹(副会長) 大森 伸男(専務理事)ほか	

議 事

- 1 職域別部会の運営等
- 2 副委員長の選任
- 3 委員会報告の取りまとめと対応の経過等
- 4 委員会における検討事項

獣医学術の振興・普及に果たす獣医師会の役割

- 公益法人制度改革等を踏まえた学会(地区学会を含む)の組織と運営のあり方 -

会議概要

開会にあたり酒井委員長から、「本委員会ではこれまで2期に亘って獣医学教育について検討を行った。前々期委員会では金田先生が委員長となり標準的カリキュラムについて検討いただいた。また、前期委員会では私が委員長となり、獣医学教育改善に向けての外部評価のあり方について取りまとめを行った。いずれも全国獣医学関係大学代表者協議会から依頼をいただき獣医学教育の方向性を議論した。今期は、これまで長い間の検案であった『本会の学会活動の方向性を今後どうするか』ということについて新しい方向性を見出していきたい。」旨の挨拶があった。

1 職域別部会の運営等

大森専務理事から委員の紹介につづいて、資料に基づき本委員会の組織上の位置付け、委員構成、職域別部会運営規程等の説明が行われた。

2 副委員長を選任

委員の互選により、内藤善久委員が副委員長に選任された。

3 委員会報告のとりまとめと対応の経過等

酒井委員長から、資料に基づき、前期の学術・教育・研究委員会の報告書等を踏まえ、平成19年7月25日付けで文部科学省高等教育局長、農林水産省消費・安全局長、全国獣医学系大学の学長（学部長、学科長）、全国大学獣医学関係代表者協議会、日本学術会議、日本獣医学会、全国農学系学部長会議、大学基準協会に於て「獣医学系教育の改善に向けた外部評価の取り組み等について」の要請活動を実施した旨が説明された。

また、要請活動を行ったその後の状況について大森専務理事から説明が行われ、次年度には文部科学省において学部体制再編整備の前段階として期待される戦略的連携推進事業が新規に実施されると聞いており、また、全国大学獣医学関係代表者協議会や全国農学系学部長会議等においても今回の提言が評価を得ており、この提言が獣医学教育改善の推進に向けたベースになっていくものとして機能することを期待していると述べられた。

4 委員会における検討事項

獣医学術の振興・普及に果たす獣医師会の役割

- 公益法人制度改革等を踏まえた学会（地区学会を含む）の組織と運営のあり方 -

(1) 大森専務理事から、本委員会における検討事項「獣医学術の振興・普及に果たす獣医師会の役割」を検討するにあたっての背景及び課題、検討のポイント、検討の経過と当面の方向、さらに本会の組織、学会年次大会や地区学会、地区大会の開催状況等について資料をもとに説明が行われた後、以下の意見が出された。

ア 本委員会での学会組織のあり方の検討は、あくまでも現行の日本獣医師会の定款上における学会の位置付けに則って進める。

イ 今後の地区学会の開催においては、地区連合獣医師会が直接運営する方が良いのか、または開催地の地元の地方獣医師会を持ち回りで開催運営に当たってもらい担当する形式の方が良いのか、本件については今後の検討課題である。

ウ 部会と学会は定款上別々に設定されているので一緒になることはできないが、部会と学会がお互いに連携協力して活動していくことに大きな利点が見出せると思われる。

(2) つづいて大森専務理事から、本委員会の検討の方向として提案された「学会の組織運営及び事業活動に係る関係規程等の見直し検討の方向」について資料をもとに説明が行われた後、酒井委員長から今後に向けて自由な意見をいただきたい旨が述べられ、以下の意見交換が行われた。

今後の学会のあり方について

ア この委員会では日本獣医師会における新たな学会のあり方を提案する「原案」を作成することが目的である。

イ 学会組織と運営の見直しを行うためには、まずは学会関係の各種規程の整理を行えば良いのではないか。これにより自ずと今後の学会の方向性が見えてくると思われる。

ウ 学会の活性化の指標としては演題数の増加があげられるが、この他にも学会の企画内容が改良される等の理由による参加者の増加も指標となる。

エ 学会活動には学術発表だけではなく社会的活動や教育活動も含まれるので、学会が活性化するためには、学会参加者や演題数の増加に併せ、社会的活動や教育活動が行われることが必要である。

オ 学会の場において学術的な情報交換や社会活動についての意見交換を行うことにより、個々の獣医師のステップアップにつなげることができる。これは獣医療全体の底上げともなる。

カ 学会参加者がどれだけ満足できるかが、その学会の評価につながるのではないか。

地区学会の開催について

ア 地区学会を運営する地方獣医師会の側から見ると、参加者や発表演題数があまりにも多くなることは会場費や運営費の増加にもつながることとなるため、必ずしも利点だけとは限らない。

イ 発表演題数があまりに増えすぎることへの対応については、学生からの発表をポスターによる発表方式に統一することにより対応が可能ではないか。また、ポスター発表から選出する賞を設定すればポスター発表の増加、ひいては参加者の増加にもつながる。

ウ 地方獣医師会で選抜を行い優秀な演題を地区学会に出している地区もある。これにより発表演題数が増えすぎず、かつ発表内容のレベルを上げることにもつながる。

エ 申込演題数が少数の地区学会については、他地区と合同で地区学会を開催することによる対応を検討するべきである。

オ 獣医学系大学の多くは、地区学会の開催に積極的に参加していないと思われる。地区学会と獣医学系大学が積極的な連携推進を行うような環境を作る方向で今後検討すべきである。

他の学術団体との連携について

ア つくばでの連携大会では、日本獣医学会と合同でプログラムを企画したが、評判は良かったと思われる。地区学会と日本獣医学会の合同開催においても、合同プログラムを企画したりプログラムをお互いに組み入れることにより、参加者の興味を引くような内容になるのではないか。

イ 公務員獣医師にとっては学会での長期間の滞在が難しいので、地区学会と他の学術団体との合同開催の際には、プログラムの組み入れ等により開催日数を短縮し、参加者がより参加しやすい環境にする工夫が必要である。

学会発表について

- ア 主催者側から一般演題の申込みが増えるように声掛けを行うのではなく、参加者側から自発的に発表演題を申し込む学会にならなければならない。また、無理に演題数の増加推進を行うと発表内容の質が悪くなる恐れがある。学会活性化のためには発表演題の量と質の両面が良くなる必要がある。
- イ 発表演題数が増加しない理由として、学会で発表を行うメリットが感じられないことがあるのではないか。学会で発表を行っても評価の対象にならなかつたり業績として取り上げられなかつたりする状況があり、より多く人が集まる学会や、または賞が出る大会の方での発表を選択する実状がある。

学会組織について

- ア これまで形式上学会に存在していた執行権や会計については廃止すべきであるが、地区評議員会等の組織を何らかの形で残すかどうかについては、今後の本委員会における検討課題の一つである。
- イ 日本学術会議の学術登録団体となる以前は、日本獣医師会が学会を直轄して運営していたが、学術登録団体となるべく学会規程等の整備を行ったために現在の二重組織の構造になった。今後は、学術登録団体となる以前の組織も参考にして、学会組織のあり方について検討を行っていく。
- ウ 昨年度の学会年次大会において開催した各学会の理事懇談会の場に地区学会長を招聘したが、このような会議として、新たな学会関連規程の中に地区学会長が参加できるようにしてはどうか。
- エ 以前は、北海道獣医師会は北海道地区学会を単独で開催して順調に運営を行っていたが、日本獣医師会の学会の規程により地区評議員会等地区学会の運営を規定したことから、地区学会を運営する上での事務手続きが多くなった。
- オ 地方獣医師会で選出される地区評議員には、所在する獣医学系大学から必ず選出するように規定してはどうか。大阪府獣医師会では、大阪府立大学から各学会に必ず評議員を選出する規約を作っている。
- カ 学会組織の見直しにあたり、学会役員組織のあり方や選出方法、地区学会の位置付けや連携等、どのように組織立てをしていくかをこの委員会において今後検討していく必要がある。

地区学会と地区大会との連携について

- ア 地区大会と地区学会を別々に開催することにより地区学会の開催費用が少なくてすむが、参加者が分散し、特に地区大会への参加人数が減少するという傾向がある。
- イ 地区大会や地区学会において、獣医師会の活動を一般市民に知ってもらう公開セミナーをもっと開催して獣医師会の存在をアピールすべきである。
- ウ 地区大会において決議された要請事項は、日本獣医師会に提出するほか、その地区の各都道府県や獣医学系大学にも提出すべきである。
- エ 地区大会の役割は、地方獣医師会が共通で抱えている問題をスローガンとしてまとめ、日本獣医師会に提出し部会での協議・検討につなげること、また、功労者表彰や地域獣医師会活動のアピールも開催の目的である。

(5) 会議の最後に、中川副会長から以下のとおり挨拶が行われた。

公益法人である日本獣医師会の大きな柱としては、 学術活動、 公益事業の2本があると思うが、この学術・教育・研究委員会は一方の柱を担っているので、是非委員の先生方のお知恵をいただき、構成獣医師の将来が明るくなり、満足できる日本獣医師会になれるよう、ご努力をお願いしたい。

まとめ

第6回委員会は酒井委員長より以下のとおり取りまとめられた。

- 1 本委員会の検討事項である「獣医学術の振興・普及に果たす獣医師会の役割」について意見があれば事務局への提出をお願いしたい。
- 2 本委員会での検討事項は日本獣医師会の学会活動の根幹に関わるものであるので、慎重に時間をかけて協議していく。
- 3 今後は学会関係規程等の改正素案を事務ベースで作成し、これを委員長・副委員長でとりまとめた後、次回委員会に提出して検討いただくこととしたい。